

## 量子コンピューター 新技術開発で物色機運

東京大学の古沢明教授らが量子コンピューターの実用化へ向けた、新たな技術の開発に成功した。先行する米国勢のIBMやグーグル、カナダのD-Wave社も新機種を投入するなど、再び物色テーマとして盛り上がってきた。

量子コンピューターは、従来のコンピューターを大幅に上回る計算速度を備え、膨大なデータ処理が必要なAI（人工知能）や新薬などの開発に、飛躍的な効率性をもたらすことが期待されている。D-Waveは「量子アニーリング」と呼ばれ

る方式でリードし、IBMは商用システムを今年発表した。

一方、古沢教授が開発した技術は、従来の稼働条件だった極低温の環境を必要とせず、常温常圧下でも高度な計算を可能にするもの。普及のハードルを引き下げるのに寄与することが期待される。

これを受け、株式市場では関連銘柄に物色の矛先が向かい始めた。18日はD-Waveと協業するソフト開発のフィックスターズ（IFスターズ、3687）や、電子計測器のエヌエフ回路設計ブロック（NF回路、

## 本紙既報の日本化が急伸

6864・JQ）が買われた。また、17日付株式新聞1面「量子ドット技術、本格普及期へ」の記事で紹介した日本化学工業（4092）も、このテーマに乗り年初来高値を更新。量子コンピューターの計算にはナノ（1ナノは十億分の一）レベルの半導体結晶「量子ドット」が活用され、日本化はその原料を手掛ける。このほか、テラスカイ（3915）やユビキタスA1コーポレーション（ユビキタAI、3858・JQ）も関連株に挙がる。